

大学剣道選手の国際適応力

The Intercultural Adjustment Potential of University Kendo Players

小森富士登* 武内政幸** 若山英央***

岡田龍司**** 平山聡子***** デービット・マツモト*****

(* 国士舘大学, ** 大東文化大学, *** 国際武道大学,

**** 近畿大学, ***** San Francisco State University)

Fujito Komori* Masayuki Takeuchi** Hidenaka Wakayama***

Ryuji Okada**** Satoko Hirayama***** David Matsumoto*****

(* Kokushikan University, ** Daitobunka University

*** International Budo University, **** Kinki University

***** San Francisco State University)

1. 【緒 言】

日本は現在、多岐の分野でまさしく「国際化」が進行している。国際化時代の今日、国際社会との関係を見放しては国として立ち行かないことは周知のことである。

しかし、世界には厳然として「異なった文化」が存在しており、この異文化の理解なくして政治・経済をはじめ種々の活動は難しくなる。したがって、異文化の理解や異文化への適応力の育成は今後あらゆる分野で課題になり、「異文化」を越えるための心理特性を理解することは益々重要になると思われる。剣道界として例外ではない。

さて、剣道界においては、1970年に国際剣道連盟が設立されてから2000年10月現在、41カ国・地域を代表する団体が加盟するまでに発展している。学生剣道界においても例外ではなく、海外遠征や国際剣道セミナーなどが開催されており、また大学では海外指導実習や外国剣士の留学生も増えてきており益々国際化が進行している。

全日本剣道連盟は「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」とし、その理念を掲げている。日本では人間形成の有効な手段として教育界にその根をおろし知育・体育・更に道徳教育の一環として考えられ、教育組織における体育教育のプログ

ラムとして現在も存在しており、多くの剣道修行者や特に剣道指導者は、この理念に基づき剣道修行における数多くの利点を説いている。また、この理念に基づき剣道の稽古や指導を行ってきたのである。

しかし一方では、今日の剣道の現状は剣道本来の姿ではないとか剣道の教育的価値を指導上活かされていないなどの批判も聞かれる。その結果として、文化的価値の忘失・武道精神の希薄化¹⁰⁾・スポーツ化による試合偏重主義傾向³⁾などの問題が山積みされているのである。

このような色々な議論のなかには、剣道は本当に人間形成に役立つのか？また、この国際化時代を生きていく若い人達の教育に剣道は有効に機能しているのかと云ったものもあり、剣道指導者とりわけ学校教育での剣道指導者の責務は大きいと思われる。

スポーツをはじめ武道の科学的研究が年々その重要性が高まるなか、剣道の修行が本当に人間形成に効果があるのであれば、その効果を公式に報告することは当然のことであると思われる。しかし、剣道選手の道徳的特徴を測った信頼性や妥当性のある研究報告は、われわれ知る限り見当たらない。

そこで本研究では、剣道の正しい普及・発展をはかり、益々加速する国際化時代に適応する大学剣道選手の育成と、また指導者として指導理念の確立を目標に、大学剣道選手の国際適応力の心理的要素について研究し、剣道の稽古が有効な精神的かつ心理学的結果と関連することを検討するものである。

2. 【研究方法】

(1) ICAPS (Intercultural Adjustment potential Scale) について

異文化適応が成功するための要素についての研究は、これまでに様々な角度・テーマより多くの研究者より膨大な数の研究が報告されている。しかし、これらの研究の多くは、例えば相手国や自国についての知識や言語・会話能力、赴任前の体験など知識要素についてのものが中心で文化や文化の相違などをどのように考えるかなど、いわゆる文化的観点から異文化適応性を測っているものが多く^{1) 2) 4) 5) 6) 7) 11)}、異文化への適応、異文化間コミュニケーション、それぞれ各国の文化に適したテストの必要性、ステレオタイプ的な文化の特徴などで欠ける点があるとの指摘がある⁸⁾。

今までそのような研究が行われていなかった大きな理由の一つとして、人格にプラス面の変化をもたらすと思われる幾つかの心理的または道徳的スキルを測るための信頼性の高い確かな手段が無かったのである。さらに、大抵の心理学分野で開発されたテストや測定法は日本以外の国や外国人（大抵はアメリカ人である）に視点を当てて

作成されたものであり、日本人に対するこのようなテストの妥当性の一般化にはかなりの限界があるといえる。

しかし、最近の異文化心理学や異文化コミュニケーションの分野の著しい進歩が、この隔たりを小さくしている。

マツモトらは、異文化適応における成功・不成功を決定する最も重要なプロセスの一つは、自分および相手の感情の処理の仕方であり、つまり、知識・認識の問題ではなく、それらは感情面からのアプローチであるとの結論から、1995年以来、心理的観点から異文化適応性を測る ICAPS の研究に着手し、異文化適応能力と呼ばれる尺度 ICAPS を開発したのである。

その尺度とは、日本人被検者延べ2000名にのぼる母集団を対象に作られたもの（ここで用いられた日本人集団を準拠集団とする）で、その妥当性は確実なものである。ICAPS は個人が持つ国際的、異文化的、さらに社会適応性などに必要とされる心理的スキルの度合いを測るものであり、①感情制御 (Emotion Regulation)、②開放性 (Openness)、③柔軟性 (Flexibility)、④自主性/創造性 (Autonomy/Creativity) の4つの主要心理スキルからなっている。さらに、その ICAPS は総合得点も計算され、一般的異文化適応性をも測ることができるようになっている。マツモトらは、合計16もの ICAPS の研究を発表しており、それらの一連の研究成果⁹⁾「Development and Validation of Intercultural Adjustment Potential in Japanese Sojourners:The Intercultural Adjustment Potential Scale (ICAPS)」を International Journal of Intercultural Relations に報告している。それらは、Internal, Temporal,さらに Parallel フォームなどを用いた信頼性や Construct (Convergent と Divergent と Incremental を含む) と Predictive (Concurrent と Proscriptive を含む) との妥当性を十分に検討した研究であり、この ICAPS は標準化されている。

本来、ICAPS は異文化心理学や異文化コミュニケーションの分野での使用を目的として作成されたものであるが、剣道修行の心理学的相関の研究にもその応用性があると考えられている。この尺度が含む領域である感情制御 (Emotion Regulation)、開放性 (Openness)、柔軟性 (Flexibility)、自主性/創造性 (Autonomy/Creativity) は、剣道修行に必要な心理的特徴に全て関連しているのである。特に、感情制御 (Emotion Regulation) は制御、自己規制、感情コントロールなどに関係しており、剣道修行の一つの目的ともいえる精神形成のすべてに深く関連していると考えられる。また、全体的に社会適応性の尺度である ICAPS の総合得点も剣道修行重要な心理学的関係を示していると考えられる。

ICAPS を用いた様々な研究では、結婚満足度や人生への満足度、カルチャーショック、うつ病、不安感、一般的社会適応性などの人生におけるさまざまな大きな問題が ICAPS と相関関係があると報告されている。それゆえに、この尺度の有用性は心理学やコミュニケーションにおける研究だけではなく、剣道の研究分野においても大きなプラスと考えられる。したがって、この尺度が社会適応性形成に関連する心理的スキルを測るために、剣道修行の目的でもある「人格」の概念を直ちに評定することができると思われる。

このように、心と人格の形成は剣道修行に伴うものであるといわれている。また、全日本剣道連盟は「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」を剣道の理念として掲げており、剣道修行の成果を ICAPS を用いて検討することはきわめて重要と思われる。

(2) 質問紙及び調査方法

質問紙は、前述したマツモトラが作成した ICAPS を用いた。この ICPS（個人的思考や意見に対する調査）は

- ①感情制御 (Emotion Regulation)
- ②開放性 (Openness)
- ③柔軟性 (Flexibility)
- ④自主性/創造性 (Autonomy/Creativity)

の4つの領域に分類された55項目を用いた。(表1)

これらの項目はランダムに配置され、それぞれの項目は7段階評価尺度法によって調査を行った。なお、調査は2001年11月に実施した。

(3) 被検者

本研究の調査対象は、日本の5大学剣道選手460名（男子335名、女子115名）、学年は1年から4年、年齢は18歳から27歳（ $M=19.94$, $SD=1.26$ ）、経験年数は5年から18年（ $M=12.01$, $SD=2.95$ ）である。

(4) 分析方法

分析方法は、調査後回収された資料より、「全く同意しない」…1から「非常に同意する」…7の7段階評価の調査内容を得点化し、それぞれの得点について、これまでマツモトラの一連の研究で行われた因子分析の結果より、上記の4領域の得点と因子スコアを計算した。また、総合点も計算し、その領域得点と総合点を日本人準拠

表1 個人的思考や意見に対する調査

下の7段階の尺度を用いて以下の項目に答えて下さい。各項目のあなたの答えを最もよく示す数字を選んで下さい。例えば、その項目に強く同意する(又は非常に当てはまる)場合は7を右の空欄に書き入れて下さい。そして、その項目にまったく同意しない(又はまったく当てはまらない)場合は1を書き入れて下さい。

	全く同意しない		どちらでもない		非常に同意する		
	1	2	3	4	5	6	7
1. 空想をふくらますことが好きだ							1
2. 自分の夫や妻に異性の友人がいてもかまわない							2
3. 自分の夫や妻に異性の友人がいてもかまわない							3
4. 緊迫した状態に陥ると不安になる							4
5. 誰かが不平等な扱いを受けているのを見ても、それほど気にならない時もある							5
6. 普通は緊張時にうまく対処できる							6
7. 自分はとても優しい人だと思う							7
8. 子供の尻を叩くことは、最もよい罰の方法だ							8
9. 普段はあまり悩まない							9
10. 心配したり、怖いといったことがめったにない							10
11. うまくいかないかもしれないとよく心配する							11
12. 人と話しても、それほど楽しいと感じない							12
13. いつも他人より劣っていると感じる							13
14. 上司が周りにいると居心地が悪い							14
15. 何か間違ったことをしたら、それを人に隠したい							15
16. 普段自分が無力に感じるので、誰かに改善して欲しいと思う							16
17. 世の中には、本当にどうしようもない人達がいる							17
18. 一般市民は、政府の決定に影響を与えることができる							18
19. バレーやモダンダンスを観るのは退屈だ							19
20. マリファナを吸うことは、酒を飲むより害が少ない							20
21. 俳句が好きだ							21
22. 喜びや悲しみを強く感じなければ、人生は退屈だろう							22
23. 香りは昔の思い出を呼び覚ます							23
24. 自分は頑固だ							24
25. 何事も毎回同じようにすることが好きだ							25
26. 他人がすることを気にすべきでない							26
27. 新しい食べ物を試すのが好きだ							27
28. 家にいるのが好きだ							28
29. みんな規則を守るべきだ							29
30. 変化を与えるためだけに、部屋の模様替えをすることがある							30
31. 休暇の予定を立てるのは好きではない							31
32. いろいろな考えをめぐらすのが好きだ							32
33. 普段は幸せだと感じている							33
34. 自分が周りの人を差し置いて成功するのは、ほとんど運で決まると言っている							34
35. 子供の頃は、学校を休むために仮病を使うことがあった							35
36. すぐ怒る							36
37. あまり興奮することがない							37
38. 親切にすることは一番良いことだ							38
39. 自分は古風だと思う							39
40. 子供の頃、家出をしたと思った							40
41. 現代の子供達の問題は、親が子供に十分に罰しない点にある							41
42. 移民がこの国をだめになっている							42
43. 誰も信用しない方がいい							43
44. 詩を書いてみたことがある							44
45. 死刑制度を支持する							45
46. 両親はいつも私に厳しかった							46
47. 頭のいい人は、私を居心地悪くする							47
48. 水深が深い所は怖い							48
49. 男性と女性という時は、普通セックスのことを考えている							49
50. 馬鹿な人だけが伝統的な生活を変えようとするものだ							50
51. 性的なことに関する雑誌を処分したがる人は、精神的に正常ではない							51
52. 自分の体に満足している							52
53. 宇宙の起源について考えるのが好きだ							53
54. 性教育を行うことは良いことだ							54
55. 女性も男性と同じように性的自由を持つべきだ							55

氏 名(ふりがな)	性 別	男・女	所 属	大 学
	年 齢	才	学 年	年 段 位
	経験年数	年	海外旅行の有無	有・無
競技開始時期	小学校以前・小学校低学年(1.2.3年)・小学校高学年(4.5.6年)・中学校・高等学校			
公式戦出場の有無	1.国際大会 2.学生地区レベル(県大会・地区大会等)			
を○印でお答え下さい	3.学生全国レベル(国体・優勝大会・選手権大会等) 4.出場なし			

集団の平均値 ($M=50$), 標準偏差 ($SD=10$) を用いて T-Score に換算した。さらに, 性差・大学間・学年間・段位間さらに剣道経験および年齢との ICPS 得点の相関関係も調査した。

3. 【結果と考察】

(1) 日本人準拠集団と大学剣道選手の比較

表 2 は, 日本人準拠集団と大学剣道選手の比較を示したものである。

大学剣道選手の ICAPS 総合得点 ($M=49.84$, $SD=11.88$) で, 準拠集団より低いものの有意差は見られなかった。しかし, 4 領域下位尺度の感情制御 (Emotion Regulation) は ($M=39.26$, $SD=7.72$)・開放性 (Openness) は ($M=42.80$, $SD=8.34$) で, 準拠集団より有意に低かった。自主性/創造性 (Autonomy/Creativity) は ($M=53.26$, $SD=10.21$) で, 準拠集団より有意に高い結果であった。また, 柔軟性 (Flexibility) は ($M=49.23$, $SD=9.40$) で, 準拠集団との有意差は見られなかった。

(2) 日本人準拠集団と大学男子剣道選手と大学女子剣道選手の比較

表 3 は, 日本人準拠集団と大学男女剣道選手の比較を示したものである。

大学男子剣道選手の ICAPS 総合得点は ($M=49.84$, $SD=12.15$), 大学女子剣道選手の ICAPS 総合得点は ($M=49.53$, $SD=11.29$) で, 大学男女剣道選手とも準拠集団より低いものの有意差は見られなかった。しかし, 4 領域下位尺度の感情制御 (Emotion Regulation) は, 大学男子剣道選手は ($M=39.34$, $SD=7.91$), 大学女子剣道選手は ($M=38.90$, $SD=7.40$) で男女とも準拠集団より有意に低くかったが, 大学男女剣道選手間の比較では有意な差は見られなかった。

開放性 (Openness) は, 大学男子剣道選手は ($M=42.17$, $SD=7.91$), 大学女子剣道選手は ($M=45.09$, $SD=8.86$) で男女とも準拠集団より有意に低くかった。しかし, 大学男女剣道選手間の比較では有意な差は見られなかった。

柔軟性 (Flexibility) は, 大学男子剣道選手は ($M=48.79$, $SD=9.89$) で準拠集団より有意に低くかった。しかし, 大学女子剣道選手は ($M=50.52$, $SD=8.05$) で準拠集団より高いものの有意差は見られなかった。また, 大学男女剣道選手間の比較では有意な差は見られなかった。

自主性/創造性 (Autonomy/Creativity) は, 大学男子剣道選手は ($M=52.89$, $SD=10.09$), 大学女子剣道選手は ($M=54.37$, $SD=10.73$) で男女とも準拠集団より有

表2 日本人準拠集団と大学剣道選手との比較

Item	Groups	大学剣道選手群
	N	460
Total 合計	Mean	49.83
	S, D	11.88
	T-test	0.30
Emotion Regulation 感情制御	Mean	39.26
	S, D	7.72
	T-test	29.85**
Openness 開放性	Mean	42.80
	S, D	8.34
	T-test	18.52**
Flexibility	Mean	49.23
	S, D	9.40
	T-test	1.75
Autonomy/Creativity 自主性/創造性	Mean	53.26
	S, D	10.21
	T-test	6.85**

P<0.01**

表3 日本人準拠集団と大学男女剣道選手・性差間の比較

Item	Groups	大学剣道男子選手群	大学剣道女子選手群	T-test
	N	335	115	
Total 合計	Mean	49.84	49.53	n. s
	S, D	12.15	11.29	
	T-test	0.30	0.51	
Emotion Regulation 感情制御	Mean	39.34	38.9	n. s
	S, D	7.91	7.40	
	T-test	19.51**	11.91**	
Openness 開放性	Mean	42.17	45.09	n. s
	S, D	7.91	8.86	
	T-test	14.34**	5.26**	
Flexibility	Mean	48.79	50.52	n. s
	S, D	9.89	8.05	
	T-test	0.56	0.56	
Autonomy/Creativity 自主性/創造性	Mean	52.89	54.37	n. s
	S, D	10.09	10.73	
	T-test	5.29**	4.69**	

P<0.01**

意に高かった。また、大学男女剣道選手間の比較では有意な差は見られなかった。

(3) 大学間の比較

表4は、大学間の比較を示したものである。

大学間については、ICAPS 総合得点では有意な差は見られなかったが、4 領域下位尺度では大学間に有意な差が認められ多重比較 (Tukey Test) の結果、感情制御 (Emotion Regulation) については、D 大学は (M=38.14, SD=5.51) で B 大学 (M

表 4 大学間の比較

Groups		A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F-test
Item	N	164	70	39	111	76	
Total 合計	Mean	49.79	52.71	49.10	48.07	50.23	n. s
	S, D	10.67	13.61	10.46	12.87	11.63	
Emotion Regulation 感情制御	Mean	38.58	41.44	38.99	38.14	40.47	*
	S, D	6.53	9.30	6.34	5.51	7.55	
	Tukey test	<div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></</div>					

P<0.05*

=41.44, SD=9.30), E 大学 (M=40.47, SD=7.55) に比べ低い得点を示した。

開放性 (Openness) については, C 大学は (M=38.93, SD=6.57) で B 大学 (M=42.57, SD=8.60), D 大学 (M=43.91, SD=8.13), E 大学 (M=43.72, SD=9.12) に比べ低い得点を示した。

柔軟性 (Flexibility), 自主性/創造性 (Autonomy/Creativity) については, 大学間に有意な差は見られなかった。

(4) 年齢, 経験年数と ICAPS との相関

表 5 は, 年齢, 経験年数と ICAPS との相関を示したものである。

ICAPS 総合得点と年齢, 剣道経験年数との相関関係において, 有意な差が認められなかった。しかし, 4 領域下位尺度において, 大学剣道選手の年齢は, 感情制御 (Emotion Regulation) と柔軟性 (Flexibility) との間に正の相関を示し, 開放性 (Openness) と負の相関を示した。また, 経験年数は, 開放性 (Openness) と負の相関を示した。

(5) 学年別の比較

表 6 は, 学年別の比較を示したものである。

学年別については, ICAPS 総合得点では有意な差は見られなかったが, 4 領域下位尺度では学年間に有意な差が認められ多重比較 (Tukey Test) の結果, 感情制御 (Emotion Regulation) と柔軟性 (Flexibility) については, 4 年生が他の学年よ

表 5 大学剣道選手の年齢と経験年数と ICAPS との相関

	年齢	経験年数
合計 (Total)	0.081	-0.022
感情制御 (Emotion Regulation)	0.151**	0.026
開放性 (Openness)	-0.134**	-0.162
柔軟性 (Flexibility)	0.118*	0.079
自主性／創造性 (Autonomy/Creativity)	-0.049	-0.026

NB: All significance tests two-tailed. $P<0.05^*$ $P<0.01^{**}$

表 6 大学剣道選手の学年別の比較

Groups		1年生 (N=148)	2年生 (N=129)	3年生 (N=94)	4年生 (N=77)	F-test
Item	N					
合計 (ICAPS Total)	M	48.37	50.54	49.13	52.49	2.28
	SD	13.00	11.05	10.64	12.65	
感情制御 (Emotion Regulation)	M	37.70	39.37	39.22	42.27	6.00**
	SD	8.36	6.82	6.69	8.70	
開放性 (Openness)	M	44.77	42.51	42.07	41.17	4.15**
	SD	7.95	8.62	7.81	8.31	
柔軟性 (Flexibility)	M	47.65	49.22	48.77	53.11	5.94**
	SD	9.17	9.07	10.08	9.10	
自主性／創造性 (Autonomy/Creativity)	M	53.73	53.51	52.65	52.32	0.46
	SD	9.85	9.65	11.65	9.78	

 $P<0.01^{**}$

り高い得点を示した。一方、開放性 (Openness) については、1 年生が 4 年生よりも高い得点を示した。

(6) 段位別の比較

表 7 は、段位別の比較を示したものである。

段位別の比較については、ICAPS 総合得点では有意な差は見られなかったが、4 領域下位尺度では段位間に有意な差が認められ多重比較 (Tukey Test) の結果、柔軟性 (Flexibility) において、4 段所有者が他の段所有の学生よりも高い得点を示した。

以上の結果、本研究の被検者である日本の大学剣道選手は、男女とも日本人準拠集団と比べ ICAOS 総合得点では有意な差は見られなかった。しかし、4 領域下位尺度では、男子は感情制御 (Emotion Regulation)・開放性 (Openness)・柔軟性

表 7 大学剣道選手の段別間の比較

Item	Groups N	式段 (N=26)	参段 (N=365)	四段 (N=53)	F-test
合計 (ICAPS Total)	M	51.00	49.58	50.54	0.30
	SD	14.05	11.74	12.24	
感情制御 (Emotion Regulation)	M	39.43	38.97	41.13	1.82
	SD	7.68	7.73	7.93	
開放性 (Openness)	M	42.7	43.20	40.49	2.53
	SD	9.88	8.15	7.69	
柔軟性 (Flexibility)	M	47.69	48.83	53.01	4.96**
	SD	14.06	8.91	9.69	
自主性/創造性 (Autonomy/Creativity)	M	54.13	53.31	52.98	0.11
	SD	8.07	10.02	11.65	

P<0.01**

(Flexibility) で、女子は感情制御 (Emotion Regulation)・開放性 (Openness) の面で日本人準拠集団より劣っていることが解った。

特に、大学男女剣道選手の感情制御 (Emotion Regulation) の分野は、日本人準拠集団と比べ低い得点を示している。感情制御 (Emotion Regulation) は感情コントロールと関係しており、それはプラスで、かつ構成的であり、また意味ある人生経験を導き、自分の利となるように上手く自分の感情を使いこなすことである。このことから、大学男女剣道選手は感情コントロールを行う技術を身に付けていないと考えられる。

これは、感情コントロールや自己規制・制御の発展が剣道修行で副次的に得られると考えられてることと対照的である。

また、大学男女剣道選手の開放性 (Openness) の分野も日本人準拠集団と比べ低い得点を示している。開放性 (Openness) は、新しい経験・知識を取り入れようとする能力であり、大学男女剣道選手はこの能力を身に付けていないと推察された。

このように、大学剣道選手が社会的・国際的・異文化的レベルでの交流やコミュニケーション、さらに適応性に必要とされる幾つかの重要な心理的スキルが欠けていることが推察される。

それゆえに、本研究結果は大学剣道選手の修行が「剣道の理念」の妥当性に疑問を投げかけたのである。

これは、近年指摘されてきた勝利至上主義傾向の大学剣道の実態を反映しているとも考えられる。

4. 【まとめ】

剣道は、日本においては人格形成の有効な手段として教育界にその根をおろし体育・知育・さらに道德教育の一環として考えられてきた。また、世界においては2000年10月現在、41カ国・地域を代表する団体が国際剣道連盟（IKF）に加盟するまでに普及・発展している。これは、世界的に剣道修行の効果が認められたと考えられる。

本研究の目的は、剣道の正しい普及・発展をはかり、益々加速する国際化時代に適応する大学剣道選手の育成と、また指導者として指導理念の確立ため大学剣道選手の国際適応力の心理的要素について研究したものである。

日本の大学剣道選手（460名）の被検者が ICAPS（Intercultural Adjustment potential Scale）を受け、その得点と2,000人以上の日本人準拠集団の ICAPS 得点とを比較した。剣道修行の効果が心理的性質の形成に伴うものであるという考えへの妥当性を実験的に検討した。

その結果、次のような結論が得られた。

- 1) 大学剣道選手（460名）の被検者の ICAPS 総合点は、日本人準拠集団より低いものの有意差はなかった。しかし、感情制御（Emotion Regulation）・開放性（Openness）は準拠集団より有意に低かった。また、柔軟性（Flexibility）は準拠集団との有意差はなかった。自主性／創造性（Autonomy/Creativity）は、準拠集団より有意に高かった。
- 2) 大学男子剣道選手と大学女子剣道選手の ICAPS 総合得点は、日本人準拠集団より低いものの有意差はなかった。しかし、4領域下位尺度では、男子は感情制御（Emotion Regulation）・開放性（Openness）・柔軟性（Flexibility）で準拠集団より有意に低かった。女子は感情制御（Emotion Regulation）・開放性（Openness）で準拠集団より有意に低かった。柔軟性（Flexibility）は準拠集団より高いものの有意差はなかった。しかし、自主性／創造性（Autonomy/Creativity）は、男女とも準拠集団より有意に高かった。
- 3) B 大学と E 大学の ICAPS 総合得点は日本人準拠集団より高く、A 大学と C 大学と D 大学の ICAPS 総合得点は日本人準拠集団より低いものの各大学共に有意差はなかった。また、大学間においても有意差はなかった。しかし、4領域下位尺度の感情制御（Emotion Regulation）において、D 大学は B 大学と E 大学に対して有意に低かった。開放性（Openness）においては、C 大学は B 大学と

D 大学と E 大学に対して有意に低くかった。

- 4) 大学剣道選手の年齢と経験年数と ICAPS との相関では、感情制御 (Emotion Regulation) と柔軟性 (Flexibility) が年齢と正の相関を示し、開放性 (Openness) は年齢と経験年数に負の相関を示していた。
- 5) 大学剣道選手の学年別比較では、4 年生が他の学年より感情制御 (Emotion Regulation) と柔軟性 (Flexibility) に高い得点を示していた。一方、開放性 (Openness) において、1 年生が 4 年生より高い得点を示していた。
- 6) 大学剣道選手の剣道の修行の成果を表す段位においては、弐段・参段・四段の ICAPS 総合得点の有意差はなかった。しかし、4 領域下位尺度の柔軟性 (Flexibility) において、四段所有者の方が弐段・参段所有者より高い得点を示した。
- 7) これらのことから、大学剣道選手は社会的・国際的・異文化的レベルでの交流やコミュニケーションなどに必要とされる幾つかの重要な心理的スキルが欠けていることが推察される。

本研究の一部は、日本体育学会第53回大会及び日本武道学会第35回大会にて発表した。

引用・参考文献

- 1) Berry, J. W. (1994). Acculturation and psychological adaptation. In A. M. Bouvy, F. J. R. van de Vijver, P. Boski & P. Schmitz (Eds.), *Journeys into cross-cultural psychology* (pp.129-141). Lisse, Netherlands: Swets & Zeitlinger.
- 2) Berry, J. & Sam, D. (1997). Acculturation and adaptation. In J. W. Berry, M. H. Segall, and C. Kagitcibasi (Eds.), *Handbook of cross-cultural psychology, Vol 3: Social and behavioral applications*. Boston, MA: Allyn and Bacon.
- 3) 月刊武道 317号 (4月号). pp.118-121 1993年.
- 4) Fukukawa, T. (1997). Sojourner readjustment: Mental health of international students after one year's foreign sojourner and its psychological correlates. *Journal of Nervous and Mental Disease*, 185, 263-268.
- 5) Fukukawa, T. & Shibayama, T. (1993). Predicting maladjustment of exchange students in different cultures: A prospective study. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology*, 28,

142-146.

- 6) Fukukawa, T. & Shibayama, T. (1994). Factors influencing adjustment of high school students in an international exchange program. *Journal of Nervous and Mental Disease*, 182, 709-714.
- 7) Hammer, M., Gudykunst, W., & Wiseman, R. L. (1978). Dinensions of intercultural effective-ness: An exploratory study. *International Journal of Intercultural Relations*, 2, 382-393.
- 8) Matsumoto, D. (1999). 日本人の国際適応力. 本の友社.
- 9) Matsumoto, D., LeRoux, J., Ratzlaff, C., Tatani, H., Uchida, H., Kim, C., & Araki, S. (2001). Development and validation of intercultural adjustment potential in japanese sojourners: The Intercultural Adjustment Potential Scale (ICAPS). *International Journal of Intercultural Relations*, 1, 28.
- 10) 田中鎮雄：「文部省の学校武道指導指針の史的展開過程（1）」*武道学研究* 第13巻3号 1981年.
- 11) Ward, C. (2001). The A, B, C's of acculturation. In D, Matsumoto (ed.), *Handbook of culture and psychology*. New York: Oxford University Press.